



コ ン テ ン ツ

知識の泉(森の話/木の話)
 自然彩々(センターの四季/生き物たちを紹介)
 究める/広める/育てる(業務最前線)
 楽/学広場(イベント・研修会)
 おしらせ(新規研究課題)
 職員面々(新たに配属された職員を紹介)

METSÄ - MIYAGI



知識の泉(森の話/木の話)

森林や木材に関するとおきの知識をわかりやすくご紹介します。

春の森を歩いていると、樹冠の下で足の踏み場もないほど密集して発芽している実生(芽生え)と出会うことがあります。この沢山の实生が全て生き残れるか...と言うと、そうでもありません。一見、親木の分布場所はその子供にも良い場所と思われませんが、種子や実生は、病原菌や昆虫、小動物にとっては格好の餌資源。多くのタネや実生が一度に食べられる親木の下は絶好の餌場でもあるのです。

色々な樹種の親木の下をよくよく観察してみると、親木から落ちてきたアブラムシに吸汁されて枯れそうなイタヤカエデの実生や、立ち枯れ病などの病気に罹って枯れているウワミズザクラやミズキの実生を目にすることがあります。では、実生は生き残れないのでしょうか?いえいえ、樹木も様々な工夫を施しています。鳥が好む赤や黒の果肉をつける樹種のタネは鳥に食べられ運ばれ、別の木の上から糞として排出されます。プロペラのような翼や綿毛をつけたタネは、風に乗って遠くまで飛んで行きます。遠くに運ばれ発芽した実生は、うまくいけば生き残ることができます。

親木の下ではその樹種の種子や実生を餌とするような天敵(病原菌や昆虫、小動物)の危険にさらされて同じ種類の実生は生き残る確率が低く、親木から離れた所で生存率が高い。親木の近くの空間には別の種類の樹木の子供が育ち、結果的には森の中に様々な種類の樹木が共存できる。様々な生き物が影響しあいながら樹木の分布が決まり、多様な樹種が共存しているのかもしれない。春の森に出かけたら、ぜひ小さな芽生えに、そして芽生えを取り巻く様々な生き物たちに目を向けてみてはいかがでしょうか。(地域支援部 今埜)



一斉に芽生えた実生



実生を枯らす病原菌

実生を食べる
昆虫

種子を運ぶげっ歯類



地域のオアシスでもあるセンターの四季折々の自然や、センター内に生息している野生動物たちをご紹介します。

春の山野を飾るサクラソウ

4月末～5月にかけて、センター内の沢筋ではサクラソウが紅紫色の美しい花を咲かせます。他の植物に先駆け早春に葉を拡げ始め、根元から20cmほどの花茎を伸ばしその先に花冠が深く5裂した花を数個～10個つけます。日本にはサクラソウ属の植物が変種を含め20種類ほど自生しますが、ほとんどは高山や特殊な土壌で生育し、低地まで広く分布するサクラソウは珍しい。県内でも山麓や丘陵の湿地にもよくみられましたが、開発や採掘のため少なくなり今では絶滅危惧植物に指定され、限られた地域でしか見られなくなりました。



サクラソウ

サクラソウの花は概ね二つのタイプに分かれます。花柱が長くおしべの位置が低い”長花柱花”と、花柱が短くおしべの位置が高い”短花柱花”です。(同株の花は同じタイプになります。)これは異型花柱性といわれる繁殖のしくみによるもので、昆虫により運ばれる花粉の受粉が異なるタイプの花どうしで行われやすくしています。このしくみは、自家受粉による近交弱勢を防ぐためと考えられています。



長花柱花

昔から人々に愛されてきたサクラソウは、レッドデータブックに記載され絶滅の危機にさらされています。生物多様性の生態的指標種としてもふさわしいこのサクラソウを後世に残す必要があるのではないのでしょうか。(環境資源部 梅田)



短花柱花

林業技術総合センターに生息する野生動物【ニホンノウサギ】

ニホンノウサギは日本固有種で本州、四国、九州などに分布し、草本類を中心に、木本類の葉や枝を食べます。ペットのカイウサギに比べ、後ろ足が大きく発達しており、早いスピードで走ったり、ジャンプしたりすることができます。センター内では撮影回数が多く、冬には雪の上に点々と特徴的な足跡がつき、身近な野生動物です。

(企画管理部 佐々木)



自動撮影の1コマ(夜間)



ニホンノウサギと足跡

横に後ろ足の足跡2つ。縦に前足の足跡2つ。



究める / 広める / 育てる

センター業務の柱である試験研究や普及指導、人材育成(研修)業務の最前線をご紹介します。

松島のアカマツ再生を目指して

特別名勝松島は、宮城県内の海岸林では珍しくアカマツが主体となっています。これまで宮城県産アカマツのマツノザイセンチュウ抵抗性品種は1品種でしたが、この度、3品種が開発され、宮城県産抵抗性品種はアカマツ4品種となりました。クロマツは既に抵抗性採種園を造成し、種子の供給が今年度から始まりますが、アカマツについても、種子の供給が近づいてきています。松島に宮城県産抵抗性苗木が植えられる日をお待ちください。

(環境資源部 今野)



抵抗性品種の接ぎ木増殖作業

収穫予測ソフトで林業経営を支援

センターでは、現在の森林の50年後(但し、最高140年生)までの収穫量等を素早く簡単に予測できるパソコンソフト「宮城県版シルブの森」を作成しました。このソフトは、材積や本数・密度等の変化を現在から5年ごとに50年後まで表や棒グラフで表示するだけでなく、間伐計画も反映させることができます。このソフトを活用していただくため、操作マニュアルを作成するとともに、まず公有林で使用していただき、その結果を踏まえて普及を図っていくこととしています。(普及指導チーム 細川)



市職員への操作説明の様様



楽 / 学広場

センター主催の各種イベントや研修会の開催結果、今後の開催予定などをご紹介します。

「きのこ栽培講座～身近な森林の恵みと私たち～」を開催しました

去る4月23日及び24日に、当センターと宮城県特産林産振興会の共催できのこ栽培講座を開催し、2日間で合わせて73名の県民のみなさんにご参加をいただきました。当日は、しいたけの食べ方や栽培の方法についての紹介後、班に分かれて植菌作業を体験していただきました。

今回の講座が、森林をより身近に感じ、親しんでいただくきっかけとなることを期待しています。

(普及指導チーム 粕谷)



植菌体験の様様



今年から新しく取組む研究課題をご紹介します。



ツキノワグマによる造林木剥被害の効果的な防止対策に関する調査

(担当研究員 佐々木 智恵)

ニホンジカによる森林・林業被害の軽減に向けた生息状況の把握と管理・モニタ

リングに必要な調査方法の確立 (担当研究員 佐々木 智恵)

里山広葉樹林の管理技術に関する研究 (担当研究員 田中 一登)

木質系燃焼灰の有効利用に関する実証試験 (担当研究員 玉川 和子)



平成22年4月1日付けでセンターに初めて配属となった職員や再び配属となった職員の皆さんをご紹介します。

(地域支援部 阿部政喜)

4月からセンターでお世話になることになりました。自宅からセンターまで30分弱という好条件のもと、心穏やかに、新緑を愛でながら毎日通勤しております。県庁に奉職して40年になろうとしておりますが、センター勤務は初めての経験となります。今まで研究部門との関わりは、極僅かな時期だけで、どちらかといえば外からセンターを見ていた感があります。センターへの期待は、時の流れとともに求める成果は変化し、多様化してきており、また経済性あるいは効率性も強く求められているのも現実です。この現実には怯むことなく、目標に邁進している研究員を見習い、足を引っ張ることのないよう気配りに心がけて頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(総務 高橋吉春)

事務職ですが、25年ぶりのセンター勤務です。外観は建物が若干増えたのと、アメダス等若干なくなった以外は殆ど昔のままのような感じで、とてもなつかしく思っています。しかし当時真新しかった研修館の設備が今は老朽化し、年月がたったのだなと感じています。当時は若手だったのですが、最近は書類を少し離してみるようになり、私も老朽化が少し始まっています(笑)。赴任後、過去にご一緒した方々等とまたお会いできたり、いろいろな鳥がさえずっていたりで、わけがわからず忙しい状況ですが結構楽しく過ごしています。一日でも早く仕事をマスターし、スムーズなセンター運営に庶務面から寄与できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

(総務 佐藤好夫)

この4月、14カ所目の勤務先となる当センターに配属となりました。林業関係の公所に勤務したのはしばらくぶり、約30年前の昭和55年4月から58年7月まで仙台農林事務所に勤務しておりました。その当時職場を共にした方々が、職員や来客者としてセンターを訪れ、その懐かしい顔を拝見すると歳月の流れを感じます。職場での仕事は事務なのでセンターの職員の方々が働きやすい環境づくりを目指して微力ながら努力したいと思っています。この季節センター内は草花が咲き誇り小鳥がさえずり何とも春らしい趣で昼に散歩するのを楽しみにしています。それから、センターに勤務したことを契機に数千年の歳月を生き続ける縄文杉に逢いに行こうかと思っています。

(庶務担当 永野邦明)

センター(農林水産部関係)に勤務するのは初めてです。赴任の日、不安半分で出勤しました。愛車で駐車場に向かうと正面の梅花と雉の親子が歓迎してくれました。センターは、国道4号に隣接していますが、樹木・草花・野鳥等に囲まれ環境はすこぶる良く満足しています。(花粉症の方は悲惨かも)また、センター内の高所から眺望できる船形連邦もすばらしくセンター内外の四季折々の変化を楽しみます。昼休みを利用して、センター内を散策しながら樹木等の名前を覚えたいと思っています。職場環境も良く、分からないことばかりですが皆様に親切に教えてもらいながら、微力ですがセンターのために尽くしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。面白い回文が雑誌に掲載されていたので、抜粋しました。

今朝の酒(けさのさけ) 皆花見(みなはなみ) 菊の茎(きのくき)

宮城県林業技術総合センター

〒981-3602

黒川郡大衡村大衡字はぬ木14

TEL022-345-2816 FAX022-345-5377

<http://www.pref.miyagi.jp/stsc/>



メッサ(MESSÅ)とは・・・森をこよなく愛するフィンランド人の言葉で「森、木」を意味します。